南アフリカ障害者リーダーの治療費カンパにご協力ください

DPI日本会議事務局長　佐藤 聡

　DPIではJICAの草の根技術協力事業を通じて南アフリカの障害者自立生活センターの能力強化プログラムを実施しております。2013年にプロジェクト・マネージャーの宮本さんが現地に赴任し、障害者の家を訪問し、サポートグループを立ち上げ、エンパワメントし、自立生活センターの活動が始まりました。素晴らしい障害者リーダーが続々と育ち、サポートグループを中心とした当事者支援や介助者派遣を展開しています。これまで数百人の障害者がエンパワメントされて、地域で暮らし、障害者運動に取り組み、新しい人生を歩んでいます。

　しかし、非常に残念なことは、運動を引っ張っていたリーダーたちがこれまでに何人も亡くなっているということです。私は2015年に訪問させていただいたのですが、そのときに活躍していた自立生活センターのスタッフが、わずか4年の間に３人も亡くなってしまいました。2017年には当初から運動を引っ張ってきた代表のムジさんが突然お亡くなりになりました。続々と障害者リーダーが亡くなっていく原因は十分な医療を受けられないためです。ムジさんのあとを引き継いで代表となったナダンさん、ピアカウンセラーとして当事者サポートの要であるクララさんが、体調不良のため深刻な状態に陥っております。十分な医療を受けられないのは南アフリカの社会保障制度の問題ではありますが、ようやく芽生えた障害者運動を止めることなく未来に繋げていきたい。そのためには、２人が適切な治療を受けて再び活動ができるように、日本でカンパを集めて贈りたいと思います。みなさん、南アフリカの障害者リーダーを支援してください。みなさんのご支援が、遠く離れた地にいる多くの障害者を支えることができるのです。どうぞ、一人でも多くの方からのご支援をいただけますようお願い申し上げます。

振替口座情報

【ゆうちょ銀行で手続きする場合】

口座記号番号 : 00160-0−293364

口座名称：南アフリカ障害者支援基金

【別の銀行等で手続きする場合】

銀行名：ゆうちょ銀行

支店名：〇一九（ｾﾞﾛｲﾁｷｭｳ）店

口座種類：当座預金

口座番号：0293364

口座名称：ﾐﾅﾐｱﾌﾘｶｼｮｳｶﾞｲｼｬｼｴﾝｷｷﾝ

【問い合わせ先】

 南アフリカ障害者支援基金

［住所］〒101-0054

 　東京都千代田区神田錦町3-11-8

 　 武蔵野ビル5階 DPI日本会議内

［電話］03-5282-3730

［FAX］03-5282-0017

［Mail］southafrica.disabilityfund@gmail.com

クララさん、ナタンさんの現状。

クララ・モロイ

クララさんは、標高1600メートル以上ある、このヨハネスブルグで自立生活を営んでいます。2015年に来日し、ピア・カウンセラーとしての研修を受けた後、ソウェト自立生活センターで活躍しています。ヨハネスブルグは全体的に乾燥していて、特に冬は数ヶ月雨のない、寒い日々を送ります。時折停電にも見舞われることもあり、生活環境はよくありません。毎年冬になると、「息切れ」を起こし、入院することも度々です。やはり公立病院に入院するのですが、その度、おざなりに酸素を吸って、数値が安定したら家に帰されるの繰り返しです。在宅生活を続けていくためには、在宅で使える機器が必要なのではないかと考えていますが、公立病院での給付はありませんので、自費で購入すること、そして地域生活に理解ある、信頼できる医師を探すことが必要になっています。

ナタン・シャバララ

ナタンさんは、昨年夏に日本で研修を受けた後、11月にマネージャーになりました。しかし、彼は今、病床にいます。以前にできた褥瘡が悪化してしまったのです。外から見た目は回復していたのですが、身体の奥を蝕んでいました。最初は原因不明の腹痛ということで、近所のクリニックで痛み止めをもらい、公立病院を3ヶ所はしごして検査をしました。公立病院では障害者は無料で医療を受けることができます。しかし、長い順番待ち、誤診、ずさんな治療、入院時の対応の悪さなど、問題が多くつきまといます。ある病院では入院すると、朝食はパン2切れと卵1つ、昼食はパン2切れとじゃがいもとひき肉の茹でたもの、4時に出てくる「夕食」はパン2切れのみという有様です。そこでくだされた診断は「胃潰瘍」と「腸ヘルニア」でした。しかし、公立病院の手術は1年半という長い順番を待たないといけません。幾度かの入院を経てみるみるうちに衰弱していくナタンさんを見て、私たちは日本に応援を求めることにしました。私立病院への転院です。当初、「公立病院の見立通りなら」という前提で、私立病院が出してきたのは40万円強の見積もりでした。しかし、私立病院の医師は「胃潰瘍」と「腸ヘルニア」という診断に疑問をいだき、CTスキャンなどの検査を行いました。その結果、胃潰瘍も腸ヘルニアもなく、問題が内部で広がっていた褥瘡とそこから引き起こされた腹水にあったことがわかったのです。その週のうちに手術、そして溜まった腹水を抜いています。本人は痛みが遠のき、食欲も出てきましたが、ストマ造設術など次の段階が待っていて、さらに時間がかかるようです。費用も現段階ですでに90万円近くに上っています。

全国自立生活センター協議会　副代表　中西正司

ナタンについて

　ナタンは我々の研修で日本にも来てILセンターについての講義と現場研修を行い、今後の所長候補として具体的なセンターの運営方法を現場で真剣に学んだ南アのトップリーダーです。所長選出の選挙でも常にユーザーたちの先頭に立って作業所の所長に逆らって当事者ユーザーのサイドに立ち、クララの支え役に回りました。現在のところ彼以外のソウェトILセンターの所長は考えられません。

クララについて

　クララはピアカウンセラーとしての長期研修を日本で受けた、当事者側の介助サービス利用者のまとめ役です。ピアカウンセリングが南アに定着すれば今後周辺国へのILセンターの普及がやれるようになります。また、彼女の活躍は、アフリカの障害女性にとっての大きな希望となります。

是非とも二人のためのカンパにご協力ください。

DPI日本会議　プロジェクト・マネージャー　宮本泰輔

同　補佐　スリポーン・ユパ・ミヤモト

　私たちが南アフリカに移り住み、現地の当事者の仲間たちと自立生活センターづくりを始めてから6年が経とうとしています。2ヶ所の自立生活センターで合わせて50名近くの重度障害者に介助派遣を行い、この6年で立派なサービスの担い手となってきました。しかし、順調なことばかりではありません。特に公立病院における医療事情の悪さや、栄養への知識が不足していることなど、所得、医療、教育などの格差から毎年多くの障害者が亡くなります。とくに重度の障害があると、こうした影響を特に受けやすい環境にあります。南アフリカのソウェト自立生活センターでは、今、マネージャーのナタン・シャバララさん（脊損）とピア・カウンセラーのクララ・モロイさん（筋ジス）の2名のリーダーが厳しい健康状態にあります。この2名が元気に働くことで、100人、200人といった障害者が地域で生活できるようになります。現在のところ、総額で200万円ほどが必要とみられています。

皆さんのご協力を何卒お願いします。